



第2号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

第68回全国大会 講演会

演題 「21世紀はローカルと農の時代」

講師 コモンズ代表・全国有機農業推進協議会理事

大江 正章 先生



近年、食や環境の農業分野への関心が高まる一方、就農者の高齢化や休耕地の拡大など対応に迫られる課題も多い。特に、我が国の耕地総面積の70%を占める中山間地の活性化は早急に解決を図らなければならぬ重要な課題である。このような背景からも、この度の大江先生の講演は、これらの解決を図るうえで極めて重要な示唆を頂くことができました。今回の講演内容をすべてここに掲載させていただきますので、紙面の都合上、ここでは講演の中でお話し頂いた主要項目

を掲載し、全体については各支部に配布したDVDを活用していただきたいと思っています。

講演の主要項目

- ①ローカルに未来あり
- ②都市型社会は限界社会にきている。食べ物・エネルギー・地球環境において都市に比べて地方(ローカル)の方が優れてきている。
- ③田園回帰が始まっている
- ④都市住民の農山漁村地域の定住願望が、平成16年は20%であったが、平成25年には47%であった。平成20年から平成25年までの5年間で4.1倍に上昇している。
- ⑤「田舎からイナカへ」
- ⑥「故郷へ錦を飾る」から「故郷で錦を織る」や「移住先が都」との考え方が
- ⑦子育て世代が増加している地域の共通点
- ⑧移住者に共通する傾向

- ⑨多様な仕事と農的志向
- ⑩地域を元気にする有機農業
- ⑪新規就農者は有機農業志向 移住者の65%は有機農業に興味がある。
- ⑫有機農業者は若い
- ⑬若い参入者が多く平均年齢は、44歳で40歳未満が37%を占める。
- ⑭有機農業者は地域志向
- ⑮「儲かる農業より納得できる仕事と生き方」を重視
- ⑯注目の三地域モデル
- ⑰岐阜県白川町モデル中山間地域振興
- ⑱なぜ有機農業の新規就農者が増えているのか
- ⑲有機農業で食べていけるのか
- ⑳千葉県いすみ市モデル
- ㉑学校給食の有機化・いすみ市はなぜ成功したのか
- ㉒埼玉県小川町モデル・有機農業と地場産業の連携による循環型農業
- ㉓NPO主体の内発的地域づくり
- ㉔有機の里福島県二本松市東和ふるさとづくり協議会の主体の内発的地域づくり
- ㉕農業高校への期待。

「第4回アグリ・夢・みらい塾兼農業女子フォーラムin岡山を開催して」

農場代表 福成 真英

令和元年7月22日(月)に、岡山県立青少年農林文化センター三徳園を会場に、アグリ・夢・みらい塾を開催しました。県内で第4回目となるこの行事ですが、今年には公益財団法人全国学校農場協会のご支援を得て、第5回農業女子フォーラムと兼ねて開催させていただきました。もともと岡山県には「おかやま農業女子」という独自で素晴らしい活動をされているグループがあるため、そちらのご協力も十分頂くことができました。この行事の目的は県内の若者(高校生、農大生、酪大生等)が、県内の若手農業者から農業の魅力や実際の経営内容について直接話を聞き、交流を行うことで食や農の理解を深めるとともに、将来の就農のきっかけづくりとするものです。今回参加してくださった農業

経営者は13名で、そのうち7名が女性でした。学生は50名、教員、関係者を含め全員で104名の参加者でした。

交流会の内容は、参加農業経営者の自己紹介、おこやま農業女子の活動紹介の後、5、6人ずつのグループに分かれ、グループ協議が行われました。グループ協議では農業経営者の皆さんが、生徒たちに農業についての熱い思いを伝えたり、生徒たちからの質問に親身に答えたりされました。農業経営者からの農業クイズで場を和ませた後、メンバーを入れ替えて2回目のグループ協議があり、代表生徒からの質問を受けました。最後に農業経営者の皆さんから生徒たちへのメッセージを頂きました。

参加した生徒たちの感想からは、農業経営者から直接農業や経営のことが聞けて、参考になった、参加して良かったという声が多く、大変充実した会になったと思います。

令和元年度農業教育功労者表彰及び感謝状受賞者紹介

長年にわたる農業教育への御尽力に感謝いたします。

*北海道支部 (敬称略)

丸山博正 畠山佳幸 鈴木孝道

*東北支部

唐牛清二 木村智之 赤城章夫 矢澤亨 郷田芳博 佐藤秀治 根本英夫 鈴木敏也 松平毅

*関東支部

津江一郎 宮地亮輔 三木一成 中戸川啓二 津島正秋 山芳明 宮川隆昌 藤土康雄 鈴木茂男 小安由男 相澤明彦 吉田和弘 秋葉正雄 福井正人 酒井広義 長谷川昇 原口茂久 服部修 石川洋一 北島祐二 鈴木真之 塚田正義 柳岡裕 吉成一則 斎藤誠 福島実 新井弘道 野澤次男 今井厚与志 鎌田幸生 荒井良平 若林喜久男 森田泰次 井出明行 落合剛 水野勝巳 富山剛幸 那須野弘敏 鈴木加津久

*北信越支部

佐藤晃 石山勝教 高橋信

夫 能沢万之 千代佐敏 村上孝一 長瀬賢 酒井康 旨 細井直明 吉池一彦 松枝明 北沢博之 宮下理人

*近東支部

福井敏幸 渡邊洋子 平松幸伸 加藤鉄一郎 山田裕司 鈴木篤志 鈴木明仁 石橋久仁彦 青木敬吾 渡邊千洋 守屋康晴 安江清仁 伊藤善彦 高原良之 近藤隆 森下善郎 前川浩一 加藤靖 北村元秀 加藤秀樹 小林道幸 橋本英昭 塩見繁章 栗山勝美 岩田将司 山本和弘

*中国支部

山榎教真 杉原稔 田中正士 木村三三男 藤田光司 安井盛 板谷昭 廣田耕治 齋藤公宏 安藤厚生 東森誠一 中島將生 串田洋一 三山泰治 西本英次 速見修史 奥野忠 中村雅彦 田村廣明

*四国支部

白井宏和 早海佳史 尾崎孝彦 信尾道孝 浅野治男 石田正人 中川真喜夫

*九州支部

林田作実 下川雄一郎 平

田彰 栗之丸隆太郎 松本英隆 江寄治之 柳善利 谷川靖信 松尾康秋 行成啓介 高橋明德 岩野賢一 廣田陽一 甲斐良治 河津文昭 佐藤次男 安倍智 江藤博行 江藤志朗 湯地邦人 門園史郎

*感謝状受賞者の紹介

農業教育功労者表彰の基準は満たしていないが長年にわたって農業教育にご尽力され功績のあった以下の先生方に各支部大会で感謝状を贈呈致しました(敬称略)。大塚忠男(静岡) 真部安博(香川) 藤 一郎(佐賀)

訃報

長年、「農業高校を応援する会」にご尽力を戴きました宮川典子先生がお亡くなりになりました。謹んで心より御冥福をお祈り申し上げます。



農学を超えて進化する東京農大

東京農業大学にある152もの研究室は、地球上の人類や動植物が直面している問題を解決する糸口となる研究を進めています。温暖化、資源枯渇、食糧危機、絶滅危惧種の増加など、研究対象は農学を起点に、あなたが想像する以上に広がりを見せています。あなたの使命感、夢を駆り立たせる学びと出会ってください。



東京農業大学 TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE 〒156-8502東京都目黒区保土ヶ谷1-1-1 www.noda.ac.jp

農学部 応用生物科学部 生命科学部 地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産業学部